

## 1. 実況上の着目点

- ① 強い台風第10号が日本の南を発達しながら西北西進。台風周辺の対流雲がかかり、南西諸島、西～東日本では雷を検知し、局地的に1時間に50mm以上の非常に激しい雨を解析。また奄美地方、西～東日本太平洋側では、うねりを伴い波が高く、大しけとなっている所がある。
- ② 北日本では、①の台風周辺から下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となっており、海上では雷を多数検知し、局地的に1時間に50mm以上の非常に激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風は、発達しながら北西進し、27日は奄美地方に接近、その後北上し西日本に接近する。奄美地方、西日本では次第に風が強まり、猛烈な風の吹く所がある。また、波がうねりを伴って次第に高くなり、猛烈なしけとなる所がある。29日にかけて、暴風やうねりを伴った高波に厳重に警戒。また、台風本体や外側の発達した対流雲がかかり、西～東日本の太平洋側を中心に雷を伴って非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。29日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。特に東海地方では27日午前中は、線状降水帯が発生して、大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。なお、台風の動きが遅いため、猛烈な風や波となる時間が長くなり、また、総雨量が多くなるおそれがあることに留意。
- ② 27日朝までに、前線が日本海から北日本にかけてのびる。前線に向かって、台風周辺から下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。また、前線周辺では気圧の傾きが大きくなり、風が強くなり波が高くなる所がある。北日本では29日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、強風や高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、降水分布はMSMやLFMも参考とする。台風については最新の台風情報を参照。

**4. 防災関連事項【量的予報等】** ①雨量(06時からの24時間)：奄美300、東海・九州南部200、東北150、北海道120、関東甲信・近畿・四国・九州北部100mm。②波浪(明日まで)：九州南部・奄美10、四国6、近畿・九州北部・沖縄5、北海道・東海4、東北・伊豆諸島3m。③高潮(明日まで)：南西諸島、西～東日本で注意報基準を超過する所がある。

**5. 全般気象情報発表の有無** 「台風第10号に関する情報(総合情報)」を5時頃に発表予定。